

全力で突っ走れ！ 折乃笠部長

富士山歴訪の旅

1. 大月秀麗富嶽十二景登山の旅 2012年

【11】五番 奈良倉山 8月18日(土)



目次

【1】目的

- (1) 更なる大月発見
- (2) 大月市民特性の地理的背景
- (3) 何事にも目的を持ってチャレンジ

【2】大月市秀麗富嶽十二景 十九峰 地図

【3】	八番 岩殿山	4月30日 (月)
【4】	六番 扇山	5月19日 (土)
【5】	十一番 高川山	5月26日 (土)
【6】	七番 百蔵山	6月10日 (日)
【7】	八番 お伊勢山	7月14日 (土)
【8】	十番 九鬼山	8月 4日 (土)
【9】	九番 倉岳山 高畑山	8月13日 (月)
【10】	二番 牛奥ノ雁ヶ腹摺山 小金沢山	8月16日 (木)
【11】	五番 奈良倉山	8月18日 (土)
【12】	十二番 清八山 本社ヶ丸	9月 1日 (土)
【13】	四番 笹子雁ヶ腹摺山	9月 9日 (日)
【14】	一番 雁ヶ腹摺山 姥子山	9月29日 (土)
【15】	三番 大蔵高丸 ハマイバ	10月 6日 (土)
【16】	四番 滝子山	11月 2日 (金)

【17】考察

- (1) 更なる大月発見
 - ①全体を通して
 - ②秀麗富嶽十二景 日本一富士山が美しい十九の峰
 - ③大月の文化
 - ④悲しみの森
 - ⑤まとめ
- (2) 大月市民特性の地理的背景
- (3) 何事にも目的を持ってチャレンジ
 - ①心意気
 - ②チャレンジ ベスト5
 - ③失敗 ワースト5
 - ④楽しかった ベスト5

【18】まとめ

【11】秀麗富嶽十二景 五番 奈良倉山

8月18日(土)

自宅 → 七保町 → 深城ダム → 葛野川ダム → 松姫峠 車

松姫峠 → 奈良倉山 → 松姫峠

松姫峠 → 葛野川ダム → 深城ダム → 七保町 → 自宅 車



折乃笠の家

五番 奈良倉山

6時00分

起床。

今日は天気予報通り、曇。

なんとなく雲が切れそうだが晴れそうにない。

小生の予定では四番笹子雁ヶ腹摺山を目指すはずだったが、天候の悪化が懸念される為、中止にすることにした。

四番笹子雁ヶ腹摺山の直前の中止はこれで2回目。

昨日の午後、東部・富士五湖地方は、雷を伴う集中豪雨で、道が川の様になった。

自然を素直に受け入れる必要がある。

そこで、車で頂上近くまで行ける五番奈良倉山を選択。

途中、岩殿山、賑岡町畑倉、七保町葛野、七保町駒宮、七保町瀬戸、深城ダム、葛野川ダムを通過して、松姫峠まで車で行く。

その後、一時間登山により奈良倉山を目指す。

登山中、雨になっても直ぐ車に帰れる、林道を使えばそれほど道のぬかるみは問題ない。

合わせて、松姫（信玄の娘）峠の由来を調査し、歴史的背景、地理的背景を考察する。

天候による変更があっても、何事も前向きに考えることとリスク管理が大事である。（自分ながら、自分の考えに惚れ惚れ）

9時50分

赤い折乃笠シエンタで出発。今回もご苦労さん。

家内を大月駅前の浜野屋（パート）で降ろして、

いざ国道139号線で奈良倉山の登山口・松姫峠に向かう。

10時05分

賑岡町畑倉から七保町に入る。

この先、奈良倉山（小菅村境）近くまで、七保町葛野、七保町駒宮、七保町瀬戸の七保町である。

多分、大月市の中で一番広いのではないかと思う。



七保町を快走中

10時15分

松姫旅館を通過。

10時22分

深城ダム到着。

山の中のコンクリートの姿が美しい。



松姫旅館 結構有名

ここで紹介

『大月市は古くは「郡内」と呼ばれ甲斐東部の穀倉地帯であり、かつ交通上・軍事上の要衝であったため人口が多い地域であったが、中央本線や中央自動車道の開通は都心のベッドタウンとしての重要性を高め、戦後急速に人口が増加するに至った。

このため新規の農業用水確保や上水道確保が必要となった。

こうして河川総合開発の必要性が生まれ、葛野川にダムを建設し治水・利水に役立てようという構想が立った。

1974年（昭和49年）『葛野川総合開発事業』が立案され、その根幹事業として計画されたのが深城ダムである。』



深城ダム

10時35分

薄暗い不気味な専用トンネルを抜けると葛野川ダムに着く。

誰一人いない。

高所恐怖症の小生にとってさっきから鳥肌がたちっぱなし。

山の緑と湖の緑がとても綺麗。

ここで紹介。

『葛野川ダム（かずのがわダム）は、山梨県大月市、相模川水系葛野川の支流・土室川に建設されたダム。

高さ 105.2 メートルの重力式コンクリートダムで、東京電力の大規模揚水式水力発電所、葛野川発電所の下池を形成する。

ダム湖（人造湖）の名は松姫湖（まつひめこ）という。

一方、上池を形成するのは山地をはさんで西側を流れる富士川水系日川に建設した上日川ダム（大菩薩湖）であり、異なる水系間で水を往来させることで揚水発電所としては世界有数の落差 714 メートルを確保。2 台の水車発電機によって最大 80 万キロワットの電力を発生する。

また、葛野川ダム直下には河川維持放流水を利用して発電する土室川発電所があり、下流域の河川環境保全のため選択取水設備によりダム湖水の中でも水温が高く、また濁りの少ない表層部分の水を放流している。』



葛野川ダム

10時56分

松姫峠到着。28 km 走行。

『名称の由来は、戦国時代に武田信玄の娘である松姫が、織田信長の軍勢から逃れるためにこの峠を越えたとされることによる。』

周りは雲一色で何も見えない。
やはり、天気予報通り、曇。
雨にならない事を祈る。



天気が良ければ松姫峠からは富士山や小金沢連峰が見える



周りは雲一色

11時05分

サンダルから登山靴に履き替えて、
いざ奈良倉山を目指す。
右の林道コースに行く。
ちなみに左はトレールラン（走る）コース。



右の林道コースに行く

ここで、奈良倉山を紹介

『大菩薩連嶺から東に続く尾根、牛ノ寝通りのほぼ中央にある。
牛ノ寝通りは奈良倉山付近までが、南側が相模川水系、
北側が多摩川水系の分水嶺となっている。
山頂から富士山が望め、秀麗富嶽十二景にも選定されている。
山頂にある二等三角点の点名は佐野峠となっている。』

11時22分

林道コースをひたすら歩く。



林道コースは歩きやすい

11時27分

下に深城ダムが見える。
思えば遠くに来たもんだ。



下に深城ダムが見える

11時59分

おかしい様な気がする。
スタートして55分経つがまだ着かない。
地図では60分と書いてある。
今日の小生のスピードならば、30分位でつくはずだが・・・
（陸の王者慶応に対し、平坦の王者折乃笠。登りはだめだが。）

12時17分

絶対におかしい。1時間12分経っている。
道を間違えている。
本当は、この林道のどこかで登山道に入らなければ
いけなかった？にちがいない。
戻ろう。
緑の木々は綺麗である。



道を間違えても、緑の木々は綺麗

13時06分

だいぶ戻ってきた。小走りのため結構疲れた。

と、左を見ると、な、な、なんと、松の木の間に富士山がうっすら見えている。

今日は、曇りなので絶対見られないと思っていたのと、道を間違えての戻り途中でちょっと気落ちしていた矢先のため、元気をもらえた。



松の木の間に富士山が見える

もし道を間違えなかったら、今日は富士山を見られなかったかもしれないと、超前向きの気持ちになってきた。(血液B型ののり)

13時17分

やっと登山道の分岐点まで戻ってきた。
それにしても、1時間50分位時間をロスしている。
片道55分先に行って戻って来たことになる。

一体何故こんなミスをしたのか？
今後二度とこの様なことが無い様にしっかりと原因解析と再発防止策を考えねばならない。

原因解析

- ①地図が古く、林道の行き止まりが登山道入り口に読める。
小生は、林道の行き止まりのみを目指していた。
しかし実際は、林道は更に先まで新たに伸びていた。
- ②小生の歩行速度が極端に早く(平坦の王者)、
地図上は、頂上まで1時間の所、30分ペースで歩いていたため、
相当量歩いてから異常に気がついた。
- ③前日、インターネットで前調査を実施した所、ほとんどメイン路は林道であると書いてあったので、登山道は頭になかった。
- ④分岐点は気がついてしたが、上記①～③により、頭に入らなかった。

古い地図



再発防止

- ①常に新しい地図をチェックする。インターネットも古い場合があるので、やはり最新の地図帳が良い。
- ②地図の標準時間と自分のペース時間の比を常に把握して歩く。
- ③インターネット情報は、全く正しい情報だと思わない方が良い。
- ④常に疑いの目で情報を頭の中で認識する様にする。
- ⑤そうはいつでも、明るく、楽しく、元気良く、少しぐらいの失敗はしょうがない。

13時18分
登山道入り口。
大きく左に旋回して行く。



左が登山道

13時25分
早くも奈良倉山山頂に到着。
標高1348.9m。
木々に囲まれて、薄暗く、あまり広くない。
富士の姿はまったく期待できない。



奈良倉山山頂

と思いきや富士展望所が向こうにある。
行ってみると・・・

なんと、富士の姿がある。
苦労したかいがあった。
富士が頑張ったご褒美をくれたのかもしれない。



雲から顔を出した富士



涙が出そうになったが、ぐっところえた。
(だれもないのだから涙を出しても良いのに・・・そこが照れ屋のB型)

後のなって富士は直ぐ雲の中に消えた。
たぶんこのわずかな時間のみ、顔を見せてくれた様だ。

ありがとう！富士の山！

13時35分
出発。やばい雨が降りそうだ。



霧の中の林道

13時55分
林道を急ぐ。
霧がだいぶ濃くなってきた。

14時00分
松姫峠に戻ってきた。
雨が降り始めた。
雨の中、赤い折乃笠シエータが
一人待っていてくれた。



雨に煙る赤い折乃笠シエータ

どうも小生は、女性よりも、富士山・天候・自動車にもてる様だ。(笑)

よし、雨が強くなる前に一気に帰ろう。

14時20分
帰路の車の中、松姫の事を考えていた。



雨の国道139号線

まず、松姫の生涯について

『甲斐の生まれ。初見史料は永禄8年（1565年）5月で、
信玄が富士浅間大菩薩に対し息女の病氣平癒を願った願文が見られ、
これが松姫に比定される。

永禄年間に武田氏は尾張国の織田氏と接し信玄の世子・勝頼の正室には
織田信長養女遠山氏娘（遠山夫人）を迎えていたが、『甲陽軍鑑』に拠れば
永禄10年（1567年）11月に勝頼正室は死去し、同年12月には武田・織田
同盟の補強として、7歳の松姫と信長の嫡男・織田信忠（11歳）との婚約
が成立する。

なお、武田家において形式上は「信忠正室を預かる」として扱われ、
新館御料人と呼ばれた。

元龜3年（1572年）、信玄が三河・遠江方面への大規模な侵攻である西上作戦を開始すると、織田氏の同盟国である三河国の徳川家康との間で三方ヶ原の戦いが起こる。

同盟関係にある信長は徳川方に援軍を送ったことから武田・織田両家は手切れとなり、松姫との婚約も解消される。

天正元年（1573年）に信玄が死去し、異母兄の勝頼が家督を継承すると、松姫は兄の仁科盛信の庇護のもと信濃国伊那郡高遠城下（長野県伊那市）の館に移る。

天正10年（1582年）には織田・徳川連合軍による甲斐への本格的侵攻が開始され、兄の盛信を高遠城において、勝頼は新府城（山梨県韮崎市）から天目山へ逃れともに自刃し、武田一族は滅亡する。

盛信により新府城へ逃がされた松姫は勝頼一行と別行動を取り、海島寺（山梨市）に滞在したのち、盛信の娘である小督姫ら3人の姫を連れ、相武国境の案下峠を越えて、武蔵国多摩郡恩方（現・東京都八王子市）へ向かい、金照庵（現・八王子市上恩方町）に入る。

武田氏の滅亡後、八王子に落ち延びていた松姫のもとに織田信忠から迎いの使者が訪れる。

6月2日、松姫が信忠に会いに行く道中にて本能寺の変が勃発し、信忠は二条御所で明智光秀を迎え討ち、自刃する

同年秋、22歳で心源院（現・八王子市下恩方町）に移り、出家して信松尼と称し、武田一族とともに信忠の冥福を祈ったという。

天正18年（1590年）八王子・御所水（現・八王子市台町）のあばら家に移り住む。

尼としての生活の傍ら、寺子屋で近所の子供たちに読み書きを教え、蚕を育て、織物を作り得た収入で、3人の姫を養育する日々だったという。

また姉の見性尼と共に会津藩初代藩主・保科正之を誕生後に預かり育てている。

元武田家臣であり、当時は江戸幕府代官頭の大久保長安は、信松尼のために草庵を作るなど支援をしたという。

また、武田家の旧臣の多くからなる八王子千人同心たちの心の支えともなったという。

元和2年（1616年）に死去、享年56。
草庵は現在の信松院である。』

松姫の意思の強さと優しさが伺える。
特に織田信忠自害後、22歳という若さで出家し冥福を祈ったという。
愛情の深さと信仰の深さがある。

もう一つ、逃亡時の気力と体力に頭が下がる。
ルートとしては、現在の山梨市から塩山を通過して大菩薩峠、
正丸峠、牛ノ寝通りの尾根をとって、今の松姫峠、小菅村、
奥多摩、青梅、八王子まで歩いた。（折乃笠が勝手に推測）
松姫峠から大月、八王子ルートは、岩殿城城氏の小山田滅亡のため
ありえない。
小生は毎回の登山でヒューヒュー言っているのに、松姫は子供の姫3人を
連れて、標識もなく、道らしい道もなく、靴ではなく草鞋で、何日も何日も
歩き続けた。

何のために？

武田の血を絶やさないうためだと、小生は思う。

松姫一行は、逃亡中、富士を見ていたはずである。
美しい姿に生きる希望を持ったのではないかと思う。

織田側は、たぶん松姫の逃亡経路を一部始終わかっていたに違いない。
それは、武田勝頼が新府城（山梨県韮崎市）から天目山へ逃れる状況を
全てわかっていたのと同じである。
隠密技術は凄い物があるらしい。

それでは、何故、織田は松姫を逃亡させたのか？

武田の血がほしかったのであると、小生は思う。
清和源氏の血を引く武田、その中で信玄は後一步で天下を取れた逸材。

信長は織田に武田の優秀な血を取り入れたくて、信忠と松姫を夫婦にしたかったのだと、小生は思う。

ただし、武田の名は世から一切排除して織田が一番とするために、一族を滅亡した事にしたのだと、小生は思う。

歴史はロマンである。

14時50分

そんな事を考えていたら、あっという間に浅利の郷の我が家に到着していた。

あさがおが色とりどりに咲いていた。



大事に育てているあさがお

こうして、五番 奈良倉山登山は、終わりました。

今回は、いろいろな物を見て、いろいろな経験をして、いろいろなことを考えて、いろいろなことに感動した、貴重な登山でありました。

P. S. 気がつくと帰宅まで何も食べていなかった。
家で軽くパンを食べて夜に備える。
夜は、ファミリーレストラン”けん” で思いっきりハンバーグとビールをいただきました。
松姫は、一生ハンバーグを食べられなかったと、小生は思う。